

ALL for ONE

Communication Magazine

Vol.21

TEAM BUILDING



NIPPON KABAYA OHAYO HOLDINGS INC.



特別取材 ライフデザイン・カバヤ **大**社員旅行 in ゴールドコースト

仕事も遊びも全力投球！ 結束力の原点はここに

(取材：日本カバヤ・オハヨーホールディングス 広報部 豊田沙織)

ライフデザイン・カバヤは、3月に恒例の社員旅行を実施しました。2年に1回必ず実施しており、社員は毎月3,000円を積み立てしていますが、費用の半分以上は会社負担という一大イベントです。今年は、オーストラリアのゴールドコーストに3泊4日の滞在となり、200人以上の社員が参加しました。現地では全員集合でのパーティーやクルージングを行い、大盛り上がり。その他にもゴルフコンペやマリンスポーツなど思い思いの時間を過ごし、盛りだくさんの旅行となりました。事業としては、岡山県住宅着工棟数3年連続1位と好業績を更新し続けていますが、その実績も納得の推進力と結束力を感じることができました。

今回は取材という名目でグループ会社から異例の特別参加をさせていただきましたが、さすがはオープンマインドな

社風！一瞬で仲間入りをすることができました。仕事だけではなく、遊びにも熱心なライフデザイン・カバヤの皆さん。ほとんど寝ずに遊んでいる方々も多数見受けられましたが、切り替えも早く、翌日からピシッと仕事に取り組まれる姿も印象的でした。全力で遊べるからこそ、仕事にも集中して取り組めるのだと思います。

帰国後も現地で交流した社員の皆さんから気さくに声を掛けてもらい、思い出話で盛り上がるなど、これまでにない仲間意識を実感。帰国後、ライフデザイン・カバヤの皆さんと一緒に仕事をする機会に恵まれましたが、これまで以上に連携することができ、早速仕事に良い影響を持ち帰ることができました。



社員旅行 オーストラリア ゴールド・コースト (1班のスケジュール)

○3月11日(日) 本社出発、移動

○3月12日(月) ゴールドコースト夜着

○3月13日(火) 終日:自由行動

…私はカランビンサンクチュアリ(動物園)に行き、コアラを抱っこしました。夜は営業の皆さんと現地で有名なステーキ店に。深夜まで飲みました。



○3月14日(水) 日中:自由行動

…ゴルフコンペ参加。同じ組の皆さんがプレーそっちのけで指導してください、上達!



○3月14日(水) 夜:合同パーティ



…パーティーでは、じゃんけん大会や支店対抗騎馬戦で大盛り上がり!

中:クルージング

…高級住宅地に建ち並ぶ豪邸を観察しながら住宅談義が始まる



○3月15日(木) 夕方:出発→帰国へ

○3月16日(金) 帰国



社員インタビュー

限られた予算と時間の中で、 最大の効果をもたらす社員旅行に

総務部 中川 由里恵（2011年新卒入社）

もともと旅行が大好きなので、社員旅行は毎回楽しみにしていました。普段の業務では関わらない部署の方と交流できることはもちろん、幅広い年齢の方々と打ち解けられることが、私にとっては一番大きな収穫です。

今回、私が企画から運営まで携わることになり、企画をスタートしたのは1年以上前です。行先を決めるにも、予算内でいかに満足度の高いものにするかに頭を悩ませました。今回の旅行先であるゴールドコーストは、気候も治安も良く、建築ラッシュで高層ビルや高級住宅が立ち並んでおり、事業の視点でも有意義な時間が過ごせるのではないかとということで決定しました。行先が決定してから、予算内ですら効率的に移動できるよう、さまざまな行程を検討したり、手続きの書類を取りまとめたり。社員へのオプションルツアーの案内や保険の手配など、多方面との調整に加え、打ち合わせは数十回に及び、想像以上に大変でした。通常業務とは別に、かなりの時間を費やす結果になりましたが、現地で楽しく過ごしている皆さんを見て、非常に達成感がありました。また、今回は建築視察という名目でクルージングを企画・提案し、パーティー以外にも全員集合の行程を

追加するという初の試みを実施しました。これについても大変好評だったので、うれしかったです。

今回、企画・運営する立場になり、改めて素敵な取り組みだと感じました。限られた予算と時間の中で、最大限に社員を楽しませるための企画だからです。社員旅行は多くの社員のモチベーションになっていると感じているので、その一助となれたことを誇りに思います。一方で反省点や課題も多々あったので、今回は自らアンケートも実施しました。皆さんからのフィードバックをもとに、今後もより良い企画にできるよう頑張りたいと思います！



新しい感性を吸収し、 仕事の幅を広げるきっかけに

設計部 設計課 横田（2005年新卒入社）

私はプライベートで海外に行ったことがなく、社員旅行でオーストラリアのケアンズに行ったのが初めての海外旅行でした。見るもの全てが興味深く、少し大袈裟かもしれませんが、世界が広がった気がしました。特に、海外でさまざまな建築物を見ることは、設計士の私にとってはとても良い機会です。文化の違う国の建築デザインに触れることで新しい発見があり、新たな発想が生まれたりします。また、お客様との話のネタができるのも楽しみの一つであり、そういった副産物も含めて、仕事の

幅が広がるのを実感しています。社員旅行がなければ経験できなかったことだと改めて思います。あとは毎晩同僚と飲み明かすこと！社員旅行がきっかけで親しくなった同僚も沢山います。同じ時間を過ごしてお互いの個性を知ることがどれだけ重要なことかを知りました。そして大切な仲間が増えたことで、もっと会社に貢献したいと思えるようになりました。今後も新しい物事、人との出会いを大切に、成長していきたいと思っています。



写真撮影 横田 悟さん



写真撮影 横田 悟さん



平松常宏さん



社員インタビュー

結束力と競争心がエネルギー だから強くなれる

倉敷支店 部長 平松常宏

新卒で入社し、トップ営業マンとして着実に実績を積み重ねてきた平松さん。昔から2年に1度の社員旅行が力の源になっているそう。そんな平松さんに営業代表としてお話を伺いました。

——平松さんは新卒入社ということですが、若手の頃は社員旅行についてどのように感じていましたか

グアムに2回、ハワイ2回、オーストラリアも今回で2回目。他にも台湾に行きました。家庭の事情で参加できなかったことを除いては、必ず参加しています。入社した当初は、こんなに社員に尽くしてくれる会社に入社できたことが純粋にうれしかったです。若手の頃は単純に海外旅行に行けることが楽しく、また次の社員旅行まで頑張ろう！会社に貢献できるよう精進しよう！と原動力になっていました。

——社員旅行の醍醐味はどんなところでしょうか

職場の仲間と同じ思い出を共有できることです。同僚の意外な一面が見られたり、普段交流の少ない人と短期間で距離を縮められたり。飲み会などとは違う、開放的な環境

で濃い時間を過ごすので、親近感が増して仲間意識が生まれます。また、良い意味での競争意識も生まれるので、ベンチマークする人が増え、成長につながります。旅先では支店対抗でゲームをしたりもするのですが、遊びも真剣なのでチームの結束力がより強まりますね。

——確かに今回もすごい盛り上がりでしたね（笑）。支店長が率先して盛り上げていました

それがこの会社の風土です。役員や支店長が一番テンションが高いというか。私が若手社員の時も、その姿を見て自分も負けていられない！と、遊びでも競争心を燃やしていました。その競争意識や結束力が仕事にも影響して、良い結果につながっていくのだと感じています。遊びも全力で取り組む会社だからこそ、思いっきり仕事に打ち込めるのです。私も管理職として部下や若手にもっと競争心を燃やしてもらえるようなパフォーマンスを発揮していきます！

ライフデザイン・カバヤは社員の成長を願い、環境整備への投資を惜しまない会社です。それを社員が実感できるからこそ、エンゲージメントが高まり、強い組織になっているのだと思います。



▲写真左 専務取締役 窪田健太郎氏

単なる社員交流ではない 社員旅行は更なる高みを 目指すための“投資”

専務取締役 窪田健太郎

社員から求められる社員旅行。だから続けている

当社で社員旅行を恒例行事とするようになって約25年が経ちました。今年は、社員数約280人のうち出席率は約8割です。色んな事情がありますので、一定数の欠席はありますが、これだけの社員が参加するイベントを定期的を実施できることの意義は大きいです。また、出席率を維持できるかどうかは、社員のモチベーションの重要なバロメーターであると考えており、社員から所望されないような社員旅行であればいつでもやめようと思っていますし、実施することによって仕事に良い影響が出るように努めています。

パフォーマンス最大化、業務効率にも貢献

ライフデザイン・カバヤの社員は、これまで個人よりもチームで力を合わせることで最大のパフォーマンスを発揮してきました。よって、いかにして一体感を出すかが業績を左右しますし、社員旅行をはじめとする社員交流の機会は仕事を効率化する重要な役割を担っています。良い環境を作り、良き信頼関係を構築する。その手段の一つとして、社員旅行があるのです。また社内コミュニケーションの活性化にも大いに役立っています。近年、コミュニケーションが苦手な若者が増えていると言われていますが、社員同士がコミュニケーションを取りやすいように社員旅行を企画する企業も増えているようです。当社では25年前から実施をしていますが、それも



あって、社員同士の仲が非常に良く、自由な議論ができる環境が根付いています。

重要なのは率先して盛り上げる姿勢

あとは私や執行役員が先頭に立っていかに盛り上げるか。これに尽きます。一般的に若手が盛り上げることが多いようにも思いますが、うちの会社は違います。トップに立つ者が率先して盛り上げる。そうすることで、若手が突き上げてくるのです。これが最も良い文化だと感じています。企業風土とそれを育む環境、そしてそれを支える社員。これらがあってこそライフデザイン・カバヤです。私たち経営層も社員への感謝の気持ちを忘れず、より良い環境を提供していけるよう試行錯誤しています。その中でこの社員旅行は重要な投資です。私たちが結束力強く、互いを思いやり、高め合っていくために、今後も続けていきたいと思っています。

日本カバヤ・オハヨーホールディングスグループ 2018年度政策発表



専務取締役 三國慎

ホンモノは、おいしい。
OHAYO

■オハヨー乳業株式会社

1. 安定的な収益の確保と収益構造の転換
2. コミュニケーション力の強化・人材育成



専務取締役 木下真

OHAYO
BioTechnologies

■オハヨーバイオテクノロジーズ株式会社

1. カバヤ・オハヨーグループが掲げる大方針「医と食のバランスを変える」を実現・けん引する
2. ロイテリ菌の圧倒的なエビデンスをベースにホンモノの製品展開を図る
3. 製品と情報の提供を通じて、人々の健康長寿に貢献する



専務取締役 樫田了次郎

Kabaya

■カバヤ食品株式会社

中長期経営計画=『変革』→『成長』→『飛躍』の
10年ビジョンを実現する



専務取締役 窪田健太郎

Life Design
KABAYA

■ライフデザイン・カバヤ株式会社

中長期経営計画第1期・2年目として目標数字を達成し、
新規事業を確実に前進させる



専務執行役員 石邨貴久

Link
&
Linkage

■リンク&リンケージ株式会社

グループ内の共通業務集約による効率追求と業務品質
の向上



執行役員 営業本部長 長岡芳一

**LIFE
PARTNER
IKEDA**

■ライフパートナーイケダ株式会社

1. イケダブランドの創造
2. 人材投資と育成



常務取締役 坪井直樹



■東京レジャー開発株式会社

1. ミズノオープン開催をきっかけに売上・利益ともに改善
2. ザ・ロイヤル ゴルフクラブを国内10位以内、世界ランキング100位以内を目指し、世界に通用するコースに育てていく



執行役員 総務部長 渡辺康宏



■株式会社スクエアビル

1. ターミナルスクエアを入居したいビルNo.1を維持する
2. グループ所有の不動産の管理運営による収益拡大



学校法人三友学園
常務理事 高岡信吾



■専門学校岡山ビジネス学院

1. 「規模の拡大」路線から「教育の質の向上を目指す」路線へ
2. 教育産業に携われていることに誇りを持ち業務を遂行する



取締役 伊藤英明



■株式会社サンユ-総合教育研究所(希望高等学園)

香川校を開校し、東瀬戸内圏域(岡山県・広島県・香川県)に拡がるユニークな学校を目指す

■学校法人三友学園(自由高等学院)

教育課程の見直し、少人数制による人間性教育の重視、社会的に自立できる教育を行い、地域社会に貢献する



取締役 工場長 桑田訓克



■エクセルパック・カバヤ株式会社

お客様の欲求を満たす製品・商品を消費者に届けることで社会的意義を果たす



執行役員 営業部長 小幡省二

■トータルアシスト・カバヤ株式会社

1. グループ各社の従業員とその家族の安心を提供する
2. 各事業会社に保険を通して貢献する



執行役員 編集長 大森昭伸



■株式会社瀬戸内海経済レポート

1. 情報バンク機能を高め地域貢献する
2. 人的ネットワークを生かし、中小企業支援など介入価値を高める

日本カバヤ・オハヨーホールディングス合同入社式

グループ企業の 未来を担う 新入社員100人が入社！



社長講話スライド

裏・行動規範
ノリ良く
リアクションよく
真面目に仕事しすぎない

①

社会人とは何か？

自由と秩序
自由と秩序の間には
約束

②

仕事とは何か？

社会的意義のある企業価値の向上
世の為、人の為に尽くすこと

③

何の為に仕事をするか？

学生時代のアルバイトと、正社員は何が違うのか？

自己の為の仕事と
自己と社会が繋がる仕事との違い
社会的地位、信用力を保証されている

④

世界一になる覚悟はあるか！！

あなたの価値が、企業価値を決める

仕事の時間は8時間、ビジネスの時間は24時間

お金と時間の使い方が
あなたの人生を決める

⑤

初日から利益に貢献
参加・感動・伝達

今までの人生経験をフル活用して、
自らの知識・教養を利益に結び付けよ！
究極のアマチュアリズムが
仕事を**成功**させる

⑥

昔から新入社員に贈られている言葉 V.S.O.P



20代 **V**itality
30代 **S**peciality
40代 **O**riginality
50代 **P**ersonality

20代 **バイタリティ**
元氣よく、自分から前向きに、生き生きと
職場に活力を

⑦

あきらめるな！
真の評価者は自分
やり抜け！

あきらめない
何があっても、**絶対にあきらめるな**
一流と二流の差はそこにある

⑧

2018年度グループ合同入社式が、4月2日、岡山市北区のグループ本社ビル、ターミナルスクエア12階大ホールで開催されました。

オハヨー乳業、カバヤ食品、ライフデザイン・カバヤ、リンク&リンケージ、エクセルバック・カバヤ、東京レジャー開発の新入社員が出席。初めて岡山県に訪れた人も多く、新社会人として新たな人生のスタートに不安な面持ちでしたが、野津基弘社長は「グループ会社には約3000人の仲間がいます。役職、部署関係なく、互いに切磋琢磨しながら歩んでほしい。目指す場所を明確に

し、チャレンジ精神を持って業務に取り組むことで、自分の仕事に誇りと自信が持てるような人材になってください」と激励。入社後の講話では、人間関係の構築における身だしなみの大切さや経営者の考え、仕事に対する考え方、取り組み方を自身の趣味や好きな食べ物などプライベートな話を交えながら紹介しました。

グループ各社の中・長期期経営計画は着実に進んでいます。10年後その中核を担う人材になれるよう、日々自己研さんに励み、各企業で活躍することが期待されています。

NEW FACE 2018

2018年 新入社員

ホンモノは、おいしい。
OHAYO

オハヨー乳業



安藤 光輝
(岡山県)
ゴルフ



氏平 拓利
(岡山県)
音楽鑑賞



大川 来輝
(茨城県)
サッカー



大高 美結
(茨城県)
音楽鑑賞



大寺 彩生
(岡山県)
カフェ巡り



大平 孝輔
(茨城県)
ドッジボール



小川 優香
(茨城県)
観劇



鬼沢 愛香
(茨城県)
ディズニー



鴨志田 由衣
(茨城県)
ライブ鑑賞



小坂 大地
(岡山県)
バドミントン



高根澤 志遠
(茨城県)
読書



トリハタ
鳥羽田 拓馬
(茨城県)
歌を歌うこと



永井 七璃
(茨城県)
映画鑑賞



橋本 佳奈
(岡山県)
バレーボール



長谷川 嶺
(岡山県)
音楽鑑賞



原 瑞穂
(茨城県)
音楽鑑賞



平賀 音
(岡山県)
サッカー



宮内 しおり
(茨城県)
バスケットボール



宮崎 黎
(岡山県)
ダンス



森元 真生
(岡山県)
映画鑑賞



山本 沙季
(茨城県)
ライブ鑑賞



阿部 高昌
(岡山県)
筋トレ



池田 采加
(千葉県)
読書



磯貝 岳
(神奈川県)
お酒



井上 領
(兵庫県)
スキー



内海 泰良
(滋賀県)
サッカー



太田 遥花
(東京都)
バドミントン



岡崎 圭祐
(岡山県)
スポーツ観戦



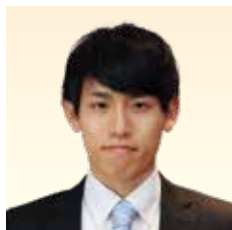
カミタニ
神谷 宥次
(鳥取県)
お菓子作り



川口 敦也
(広島県)
ダンス



川瀬 陽平
(北海道)
音楽



小島 祥介
(兵庫県)
筋トレ



近藤 大輝
(埼玉県)
料理



住井 萌花
(東京都)
チーズの食べ比べ



高倉 有里奈
(埼玉県)
チアダンス



タカノ
高野 健司
(奈良県)
釣り



田口 由佳
(千葉県)
カフェ巡り



多田 雄統
(香川県)
バドミントン



谷本 駿介
(岡山県)
野球



タノウエ
田上 晃二
(埼玉県)
テニス



田淵 香帆
(広島県)
ジョギング



中畠 航生
(埼玉県)
テニス



永田 佳祐
(熊本県)
サッカー



濱田 洋輝
(高知県)
食事



ヒエシマ
裨島 悠喜
(福岡県)
柔道



平野 航
(千葉県)
バドミントン



福田 菜穂子
(岡山県)
ギター



増田 将也
(埼玉県)
ランニング



ミベ
三部 奨太
(東京都)
サッカー



林 書宇
(東京都)
テニス



宮田 美沙紀
(神奈川県)
料理



森 奨陽
(岡山県)
サッカー観戦



柳 駿一郎
(兵庫県)
サッカー



吉田 直弘
(神奈川県)
山登り



米本 英生
(岡山県)
サッカー



渡邉 崇寛
(茨城県)
釣り



カバヤ食品



伊藤 歩美
(茨城県)
ライブ鑑賞



大瀧 迅斗
(茨城県)
バイク



岡崎 弾
(茨城県)
野球



カワラ
河原 洋典
(岡山県)
運動



宇野 紫音
(岡山県)
筋トレ



佐藤 希望
(岡山県)
絵を描くこと



タカガキ
高柿 聖羅
(茨城県)
音楽鑑賞



新田 旬平
(岡山県)
体を動かすこと



モマタ
茂又 希良梨
(茨城県)
バスケットボール



若松 愛弓
(岡山県)
ライブ鑑賞



アラノ
荒殿 郁海
(宮崎県)
旅



大谷 祥也
(三重県)
ランニング



金子 栞
(東京都)
散歩



カワタ
河田 隆宏
(徳島県)
ランニング



櫻井 省吾
(徳島県)
野球観戦



佐藤 啓一郎
(広島県)
体を動かすこと



柴田 柊
(大分県)
運動



シバヤ
柴谷 駿
(埼玉県)
野球観戦



杉岡 佳祐
(群馬県)
映画鑑賞



鳥居 雅揮
(奈良県)
絵、書道



西光 奈苗
(兵庫県)
ドライブ



松尾 彩花
(滋賀県)
ライブ鑑賞



宮崎 優輝
(神奈川県)
剣道



毛利 佳樹
(北海道)
スポーツ



森田 健斗
(東京都)
バドミントン





Life Design
KABAYA

ライフデザイン・
カバヤ



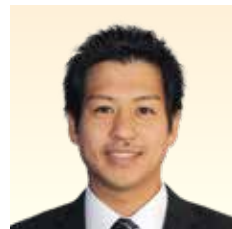
石原 舜也
(岡山県)
食べ歩き



江田 雅紀
(岡山県)
ゴルフ



沖田 祥平
(広島県)
カフェ巡り



尾田 裕太
(広島県)
テニス



梶谷 麻悠
(岡山県)
愛犬とたわむれる



楠木 貴相士
(岡山県)
体を動かすこと



佐々木 龍成
(岡山県)
野球



田中 彼方
(岡山県)
映画鑑賞



Link
&
Linkage

リンク
&
リンケージ



田中 拓人
(岡山県)
ランニング



エクセル
バック・
カバヤ



飯尾 剛士
(徳島県)
映画鑑賞



加藤 滉一
(岡山県)
ドライブ



佐藤 友哉
(岡山県)
野球



谷本 葵
(岡山県)
音楽鑑賞



ナカスカ
中須賀 脩二
(岡山県)
バドミントン



牧野 未希
(岡山県)
映画鑑賞



万代 蓮
(岡山県)
スノーボード



東京
レジャー開発



厚木 啓吾
(茨城県)
サイクリング



中野 なゆ
(高知県)
ゴルフ



森脇 広紀
(高知県)
電車の写真撮影

本人写真

氏名
出身地
趣味



第一線で 活躍するための 新入社員研修スタート！

初 日



初日は、経営者であり、哲学者の大橋一陽氏が社会における企業の存在意義について講義しました。グループの存在目的も一文ずつ分かりやすく解説したことで、新入社員も理解を深めたようです。

夜には各社の役員を交えた歓迎会を開催。基弘社長が恒例おじぎの仕方やビールの注ぎ方など社会人としてのマナーを紹介した後、乾杯。緊張していた新入社員も食事や役員、同期との会話を楽しみながら、少しリラックスした様子でした。

2 ～ 4 日目



2日目からは、より社会人として実践的なことを学ぶ講義がスタート。まずはカバヤ・オハヨーグループ所属のプロゴルファー、鈴木規夫氏が目標や夢を明確に意識し人生設計を組み立てる大切さを講演。質疑応答では、壁にぶつかった時の考え方や行動方法などの質問があり、鈴木プロが経験を踏まえたアドバイスをしており、新人にとって有益な講演になったようです。

また、外部専門講師から社会人としてのあいさつの仕

方やメールの書き方、社内外で有効なコミュニケーション技法などを学びました。真剣にメモを取るなど早く会社に貢献できる社員になろうとする姿が見られ、グループ企業が求める人材へ少しずつ歩みを進めていました。

各社先輩社員とのディスカッションも実施。会社の現状や具体的な仕事内容を聞くことで、仕事に対するモチベーションを高めていました。

5 ～ 6 日目



今年初めて実施したチームビルディング研修。チームビルディングとは、仲間と意思を一つにし、多様性を発揮しながら一つのゴールに向かって進んでいく組織づくりを目的にした研修です。初日は倉敷市にある少年自然の家で、チームごとにレクリエーションや飯ごう炊飯を実施。非日常空間で経験を共有することでグループ社員同士のきずなを深めました。

グループ研修で築いたチームワークの集大成として、「キンボール」という球技を実施。チームごとに戦略を立て、各人が役割を果たすことで、チームで物事に取り組むことの重要性を再確認しました。





日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社
代表取締役社長 野津 基弘

～ 柱を立てるためのチームビルディング ～ 世界一に向けて、覚悟と準備の年

新入社員の皆さんも仲間に加わり、2018年度がスタートしました。
新たな期のスタートに際し昨年度の総括並びに本年度の方針を述べさせていただきます。

昨年度は『真の欲求を究めて、ホンモノをカタチにする』をテーマにした、中長期経営計画の第1期がスタートした年でした。

エス・バイ・エル・カバヤからライフデザイン・カバヤへの社名変更、再スタートに始まり、ザ・ロイヤルゴルフクラブへのミズノオープン誘致決定、リンク&リンケージの設立、オハヨーバイオテクノロジーズの設立とロイテリ事業の開始、イケダペットファームからライフパートナーイケダへの社名変更など、さまざまな変化と取り組みにチャレンジし、将来に向けての可能性を感じることができた1年でした。

一方で、一部において計画が事実上破綻し、現場に混乱を引き起こしてしまいました。現場がチカラを発揮しやすい環境を整えることが我々経営陣の役割でありながら、実態を把握できていなかったことが問題です。その要因は、共通の言葉がなく、情報の伝達の仕組みを構築できなかったこと。そのことにより、会社の方針を具体的戦略、戦術に落とし込むことができなかったと捉えています。
我々経営陣の中での意思疎通が、圧倒的に不足していたという反省につきます。

昨年度の反省を受け、今年度は

- 経営陣同士、従業員同士はもちろんのこと、
HLDGS ⇄ 事業会社 経営陣 ⇄ 管理職 ⇄ 従業員
上下関係・横断的に相互理解を深め、正しく情報が伝達する仕組みを構築すること
- 理想に向けて段階的な目標を設定し、具体的な計画に落とすこと
- マーケットの状況（現実）と計画のギャップの検証を可能にすること
- 『軸』である上位概念と中・長期への方向性を理解し、短期的な結果が求められる現場の工作在しやすい環境を整えること

以上を今期の方針とし基本に立ち返って、理想に向かっていくための土台をしっかりと見直し、構築していきたいと考えています。

我々の『軸』は、変わりません。

- グループ存在目的
- 経営戦略 ⇄ 人づくり ⇄ ブランド戦略
『真の欲求を究めて、ホンモノをカタチにする』
- 行動規範
- 経営方針

この上位概念こそが我々の目的であり『軸』です。

常にこの上位概念に沿った目標を設定し、その是非について密な議論を交わしましょう。
その方向性さえ間違っていなければ、皆さんの計画・手段を、私は尊重します。
リーダーが情報を正しく共有し、物事が正しく伝わる心理的安全性を持って最善手となる手段を講じてください。

『聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥』～分かることと、分からないことをちゃんと明確に話せる社風や文化が、働きやすく、結果が出やすい企業になれると思っています。

～ 仕事は自分のモノ、評価も自分のモノ ～

現場の人たちが納得・理解し、一歩ずつでも安心して自らの仕事を達成し実感できるように、会社の方針が具体的に個人目標に落とし込まれ、評価、育成されていくよう評価制度も変えていきます。そして評価・決裁について、その決定された真意や理由のフィードバックが丁寧に行われる関係を築いてください。

● 何の為に仕事をするのか？

● どんな人生を歩みたいのか？

あらゆることを自分事に捉え、「やり切る！」という愛情と覚悟を持ち、泥臭く、汗をかき、知恵を働かせ、自己と企業の成長を共に目指しましょう。

～ 我々の想いが、我々のファンを生む ～

我々の会社はこの地域、この日本国内だけでなく、世界のどこに出しても恥ずかしくないサービス・モノづくりをしていると確信しています。

そして我々が働いている意義と意志を、より多くの人たちに知ってもらいたいと考えています。

その為に必要なのは2つあると思っています。

1つめは、

● 伝わるまで、伝えるチカラ

我々がお客様に我々企業の存在する意義、意志や想いを商品・サービスに乗せて、伝わるまで伝え切るチカラです。

社内・社員同士の Communication × FeedBack が常に行われるチームビルディングをし、チームが一丸となって我々の意志と想いを社内で伝え合い共有し、ステークホルダーの方々、そしてお客様へ伝え切るにはどうすべきか、そのチカラを発揮してもらいたい。

2つめは、

● 利益を生む柱

1つめをやり切ることができれば、必ず結果が付いてくると思います。

モノでもサービスでも売れ続け、利益を生み出し続ける柱となるのは、**我々の強い意志や想いと、お客様に価値と感動が伝わっている状態**そのものです。

我々の意志や想いをお客様が感知し、実感し、認知し、認識し、更に期待してくれる状態がお客様の意欲につながり、**ファンがファンを呼ぶ**。その意欲が維持・継続されている状態こそが『利益を生む柱』です。

我々の意志と想いをカタチにし、正しく情報を伝達し、人とつながるため、人から人へ伝わりやすくしていくための手段として「商品・サービス」「金額・量」が存在していることを忘れず、我々の意志や想い
がお客様に伝わるからこそ、我々は豊かになれるのだと思っています。

それが私が考える『伝わるまで、伝えるチカラ』であり『利益を生む柱』だと考えています。

この地域そして日本中、世界へ向けて着実に我々の意志や想いを表現し、伝わりやすいサービス・商品を持ってより多くの人たちに伝播していきましょう。

～ チームビルディング ～

『ライフデザイン・カバヤ大社員旅行』すごいですよね。

そして『さよなら、ハロルド!』のミュージカル素晴らしかった。

子どもたちの表現力、結束力に心を揺さぶられました。何事もひとりでは成し得ない。

それぞれの想いを実現させた子どもたちに負けないよう、年齢や地位、世代や立場、

肩書きや役職を超えた結束力でチームをつくりましょう。

自分を信じ、相手を信じれば必ず成し遂げられると信じています。

新入社員のみなさん入社おめでとうございます。

皆さんの人生を心から応援しています。研修を終え、それぞれの現場に向かうことになると思います。

全社員の皆さん、新入社員と一緒に何事もあきらめず、世の中のあらゆる荒波を乗り越えて行きましょう。

～ 真の欲求を究めて、ホンモノをカタチにする～

心とカラダ、豊かな人生を自らの意志で勝ちとるために。

!! Good Luck !!



2018.3.15
岡山子ども未来ミュージカル



小中学生59人が歌やダンスを熱演！ 立場の違う大人たちが多方面で サポートし感動の舞台に

オリジナルミュージカル イキイキした歌やダンスを披露

3月25日、イオンモール岡山のおかやま未来ホールで、オリジナルの子どもミュージカル「さよなら、ハロルド！ ～花咲ける海原～」の本公演を開催、約550人が来場しました。

昨年12月に実施したオーディションで選ばれた岡山県内の子どもたち59人全員が主役の舞台。大人キャスト14人をはじめ、生演奏を披露してくれたバンドマンの皆さん、衣装や音響、照明、舞台美術制作など沢山の方々がサポートし、素晴らしい舞台となりました。

脚本はアニメ「メアリと魔女の花」などを手掛けた坂口理子さんが書き下ろしたオリジナル。岡山県の小学6年生の女の子「みのり」がAIロボット「ハロルド」と共に、岡山県内を旅する物語で、学校の友達、先生、動物、地域の人々、そして家族との対話を通して成長していく主人公を描いた笑いあり涙ありの舞台です。来場者からは「子どもたちのイキイキした姿に元気をもらった」「岡山県の魅力を歌で表現していて楽しかった」「岡山や命のことなどを考える機会になった」など、さまざまな声が寄せられました。

約2ヵ月で驚くほど成長した子どもたち

練習期間は約2ヵ月間。初めは振り付けの練習に入り、歌とセリフの練習に移っていきました。土日を中心に稽古をしており、当初は練習期間が足りるのか不安もあったのですが、本番が近づくにつれ、どんどん完成度が増し、その成長には目を見張るものがありました。子ども出演者の皆さんは稽古がない日も自宅で練習に取り組むなど、「舞台を成功させたい！」という想いを一つに徐々に顔色が変わっていくのを感じました。稽古を重ねる中で、演出家の市村啓二さんをはじめ、ダンスや歌の先生、大人のキャストの皆

さんと子ども出演者との間に強い信頼関係が生まれ、協調性や責任感を学び大きく成長した子どもたち。出演者のご家族からも「ここまで成長するものかと驚いた」「我が子がプロさながらに堂々としていて驚いた」などの声が多数寄せられました。演出家の市村啓二さんは光畑さんをはじめ、子ども出演者全員の努力と才能をたたえ、このプロジェクトをきっかけに「子どもたちをサポートする活動をもっとしていきたい」と意気込んでいました。

誰が見ても主役！未経験から 見事に大役を務めた光畑さん

今回、ヒロインを務めた中学1年生の光畑穂奈美さんは「公演が近づくにつれ、絶対に成功させたいという気持ちが強くなった。終わった途端にホッとして涙が出てきました」と話してくれました。光畑さんはプロダクションに所属しておらず、歌のレッスンに通っているものの、演技は未経験。それを感じさせないプロさながらの活躍に、来場者は圧倒されていました。「今回学んだことを生かして、将来の夢である女優さんに一歩でも近づきたい」と話してくれました。

岡山県の子どもたちを応援する 継続的なプロジェクトに

当グループの地元である岡山県を豊かにするような取り組みをしたいとスタートしたこの企画。行政、協賛社、得意先や地元の劇団員など多くの方から賛同、ご協力をいただいたことで、無事に第一回目の公演を終えることができました。岡山県の子どもたちを輝かせ、岡山県の魅力を広く発信していくことを目的に、今年度も同時期の開催を予定しています。引き続き、ご協力、応援よろしくお願いします。

ザ・ロイヤル ゴルフクラブ メンバー募集サポートプロジェクト始動！

(東京レジャー開発株式会社 VIP担当デスク マネージャー 樽見直樹)



東京レジャー開発株式会社
VIP担当デスク マネージャー
樽見直樹

東京レジャー開発は、ザ・ロイヤル ゴルフクラブのメンバー募集とグループの繁栄を目的に「メンバー募集サポートプロジェクト」をスタートしました。4月から活動を開始しており、プロジェクトリーダーの沖山孝雄さんを筆頭に、VIP担当デスク7人で構成しています。私は東日本担当を務め、グループの取引先や紹介顧客の対応を中心に営業活動を進めています。

このプロジェクトの趣旨として、会員獲得はもちろんですが、グループ企業と協力し合うことも目的となっています。当グループは事業の垣根を越え、協力し合ってきたからこそ、繁栄してきた企業です。過去にはゴルフ場の売り上げが、他事業の設備投資を担ったこともあります。グループを巻き込んで、協力し合い、互いに業績を伸ばしていきたいと考えています。早速、各事業所で説明会をスタートしました。グループの皆さん、ご協力よろしくお願いします！



77人がそれぞれの進路へ踏み出す

(文：希望高等学園 副校長 伊藤英明)



希望高等学園
副校長
伊藤英明

通信教育で高校卒業資格を習得できる希望高等学園は、3月15日、2017年度の卒業式を開きました。

さまざまな事情で通学が困難だった生徒を含む77人が晴れて卒業を迎えました。榊原俊章学園長は「人はだれでも才能を持っています。自分の可能性を信じ、個性を磨き続け、誇りを持って人生を歩んでほしい」と、はなむけの言葉を贈りました。また、卒業生を代表して普通科の石堂治人さんが「さまざまな悩みや問題を抱えながらの学園生活は苦労の連続でしたが、一つひとつ積み上げていくことで無事やり遂げることができました。この経験を糧にし、また、支えてくれた先生、家族に感謝の気持ちを忘れず、これからの人生を歩んでいきます」とあいさつしました。

教員一同、生徒の成長を一番感じられる卒業式に胸が熱くなりました。卒業生がさまざまな分野で活躍してくれることを祈りつつ、私たちも日々の業務にまい進したいと思います。

教員一同、生徒の成長を一番感じられる卒業式に胸が熱くなりました。卒業生がさまざまな分野で活躍してくれることを祈りつつ、私たちも日々の業務にまい進したいと思います。



カバヤの生産モデルライン誕生！「塩分チャージタブレット」を圧倒的ブランド地位に

(文：カバヤ食品株式会社 生産管理部 部長 谷本淳也 / 生産技術部 工務課 課長 小川慎也 / 生産部 生産二課 主任 小野修司)



カバヤ食品株式会社 写真左: 生産管理部 部長 谷本淳也
写真中: 生産技術部 工務課 課長 小川慎也
写真右: 生産部 生産二課 主任 小野修司

カバヤ食品は、「塩分チャージタブレット」をはじめとする清涼菓子の生産能力増強のため、岡山工場に生産ラインを新設し、3月1日に稼働を開始しました。生産能力は、約2倍に向上。今後は、岡山工場と関東工場の2工場体制で生産を行います。

「塩分チャージタブレット」は、発汗で失われる塩分をおいしく手軽に補給（チャージ）できるタブレットとして2009年夏に発売。その後、順調に売り上げを伸ばし、今年度から定番の「スポーツドリンク」味に加え、「塩レモン」味、さらに大容量タイプ「BIG」も発売し、販売の拡大を図ります。

生産ライン新設に当たっては、大きな設備投資であり、今後のカバヤの生産モデルラインという位置付けで、建屋仕様や設備仕様について、こだわりを持って取り組みました。「粉が飛散する」という清涼菓子特有の問題と、限られたスペースの中に設備を収めることに対応するため、2次元構想ではなく、空間を意識した3次元構想でのレイアウトを検討し、また、生産性の向上や、作業者の負担を軽減する点も検討を重ね、仕様を決定しました。その結果、導入した生産ラインは、今後の人手不足を見据えた効率的で、女性でも対応可能な生産ラインであり、品質・衛生面に特化した生産ラインという特長を持っています。

しかし、設備導入から稼働に当たっては、さまざまな壁が立ち上がり、計画通りに進んだわけではありません。中でも一番苦労したのは、3月1日の稼働に向けての問題が多く、時間が足りない事でした。

製造過程の中の造粒方法（粉原料を顆粒に変える工程）については、



現状の製法に固執するのではなく、新しい製法を取り入れようと思いました。理想の生産ラインと現実問題とのギャップを埋めるため、機械メーカーとの打ち合わせや実機でのテストによるシミュレーションを何度も何度も繰り返し行ったことで、機器選定及び仕様決めに時間を要しました。あらゆる場面で、FF化（Feed forward & Fact finding）※の考えを取り入れ、予測される問題を抽出し、事前に対策を進めましたが、予測される問題は増え続け、その対応策を講じるための時間がいくらあっても足りない状態でした。他部署との連携を図り、一つ一つの問題をクリアしながら、ようやく3月1日の稼働日を迎えることができました。

実際に新ラインで製品ができた時は、ホッと安堵したのを覚えています。日々生産する中で起こる小さなトラブルに対処するため、気を緩めることはできません。そして同時に、この数か月の働きがこれから一生の働きにつながるという思いがあり、覚悟の感情を持ちました。

今後は、リスク管理を徹底し体制強化に努めながら、圧倒的なブランド地位を構築できるよう、貢献していきたいと思っています。そして、営業スタッフをはじめ、関係者の皆さまに「いくらでも販売できる生産体制が整いました！」と声を大にして伝えたいです。

※源流型開発で進行すること。状況を予測して課題抽出し、施策検討を行うことでさらに実現課題を抽出し、行動を計画し、実行するという手法。



「塩分チャージタブレット」シリーズ

従来品のスポーツドリンク味に加え、今年度より塩レモン味、チャネル限定のBIGタイプが新たに登場。

プレミアムアイス「BRULEE」の販売エリア拡大

(文：オハヨー乳業株式会社 マーケティング戦略本部 カテゴリー戦略2部 部長 松山吉孝)



オハヨー乳業株式会社
マーケティング戦略本部 カテゴリー戦略2部 部長 松山吉孝

オハヨー乳業は、3月6日より、プレミアムアイス「BRULEE（ブリュレ）」を関西・中部エリアで販売を再開しました。

BRULEEは、アイスを独自製法でこんがり焼き上げ、スイーツのブリュレのようなバリバリとした食感と香ばしくほろ苦い焼き目を再現。厳選した乳原料を贅沢に使用したミルクアイスと焼き目のバランスもよく、発売直後から大ヒットとなりました。

あまりの人気に供給が追いつかず、昨年4月の発売後わずか10日で販売を休止していましたが、体制を整え昨年10月に関東エリアで販売を再開。そしてこの度、エリアを拡大し、販売を再開することができました。

今回の再開にあたっては、大阪、名古屋、渋谷で大規模なサンプリングを実施。イベント初日にはタレントのデヴィ夫人やモデルの池田美優さんにもご参加いただき、商品をPRしました。イベントには大勢のお客様が参加され、「販売再開をずっと待っていた」「ようやく食べることができて嬉しい」といった意見もいただいています。

BRULEEを待ち望まれている全国のお客様に一日も早くお届けし喜んで頂けるように、各部署が連携し商品の供給体制をしっかり整え、販売できるよう取り組んでまいります。



「焼プリン」の新ブランド登場!!

(文：オハヨー乳業株式会社 マーケティング戦略本部 カテゴリー戦略1部 デザート企画課 田村元彦)



オハヨー乳業株式会社 マーケティング戦略本部 カテゴリー戦略1部 デザート企画課 田村元彦



オハヨー乳業は、デザートの新ブランド「焼スイーツ」を3月上旬から発売しました。

カスタード・チーズ・チョコの3種類で、中央に大きく「焼」と書かれた象徴的なロゴと洗練された上品な佇まいを演出する和紙調のフタ、シリーズとしての連動と新商品としてのインパクトを演出した赤・青・緑のカラーデザインに仕上げました。

オハヨーのデザートは、食べてもらえれば間違いなくおいしいと感じてもらえるのに、その価値がお客様に伝わっていない。そんな課題をクリアするため、焼スイーツというブランドを冠し、直火オープンでじっく

り焼き上げたデザートであることをストレートに表現。さらに家庭的な安心感と上質なおいしさを伝えていきます。

チルドプリン業界でオハヨー乳業は現在3位のシェアですが、上位2社との差はわずかです。目標はもちろんカテゴリーNo.1です。「デザートといえばオハヨー」とお客様から認められ、信頼されるように、今後もブランド構築と価値向上に励んでいきます。

グループ各社がブースを出店 「さくらまつり」を盛り上げる

(文：カバヤ食品株式会社 広報室 岩本紘子)



各ブースは来場者で長蛇の列



「さくらまつり」2018年に参加したグループ各社のリーダー



4月7、8日の2日間、「カバヤ・オハヨーグループさくらまつり」をカバヤ食品本社で開催しました。2日間で8787人が訪れ、春の行楽シーズンを楽しんでいただきました。

今年も、カバヤ食品をはじめ、グループ各社がバターゴルフ（東京レジャー開発）、アニマルバルーン（ライフパートナーイケダ）、ボールつかみ取り（ライフデザイン・カバヤ）などのブースを出店。オハヨー乳業は、牛乳パックを使った工作教室やヨーグルト試食会を開き、専門学校岡山情報ビジネス学院は、「しろくま先生」などの着ぐるみで会場を盛り上げました。2日目は、新入社員が参加し、元気な声で接客活動を行いました。

13年前、カバヤ食品の一社員からの提案でスタートしたイベントが、今ではグループ共催となり、部署や企業を越えて、同じ目的・目標を共有できるイベントになりました。「さくらまつり」は、グループ企業からの協力はもちろん、御津地域の小学校や企業、そして地域の皆さまの協力と支援により開催できています。感謝の思いを胸に、今後もグループ企業と、地域の皆さまと一緒にイベントを続けていきたいと思っています。

日本カバヤ・オハヨーホールディングス 広報部より

当初よりお伝えしていますが、会社に対して3回以上質問・意見・提案したこと、評価に対して知らされていない、3ヵ月以上返答がない、または納得が出来ていない、現場で抱えている問題…等々、誹謗中傷以外、あなたの発言を尊重して守り、個の利益・利害を阻害することなく、全て受け付けます。

ALL for ONEの精神にのっとり、問題・課題の解決に向けて取り組むことこそが事業にとって、あなたにとっての利益となると考えます。

現場にこそ答えがある。

ご連絡お待ちしております。

連絡先: 日本カバヤ・オハヨーホールディングス 広報部 担当: 豊田
Fax: 086-231-4783 Mail: info@kabaya-ohayo.jp

ONE for ALL

当事者意識を以って、個々の人生設計を中・長期経営計画に映し出し、自らの豊かさと事業の成長・発展を一致させ実行し、達成する。

ALL for ONE

現状から目を背けず、現実を直視し、真の欲求を究めて、ホンモノをカタチにする。
トップからのメッセージを直接伝えると同時に、それぞれの取り組みにフォーカスし、
全社一丸となってその一人を支えていく。

編集後記

新年度を迎え、早一ヵ月。新入社員の皆さんも会社になじみ慣れてきた頃でしょうか。私も入社から1年と数ヵ月が経過しましたが、まだまだグループの事業や人について知らないことが沢山あることを反省させられます。今回、ライフデザイン・カバヤの皆さんと一緒に社員旅行に行かせていただきましたが、お互いのことを少し知るだけで、随分仕事やりやすくなることを改めて実感しました。入社式で基弘社長から「初日から利益に貢献すること」というお言葉がありましたが、まずは1人でも多くの人とコミュニケーションを図り、仲間をつくること。これが新入社員に課せられたミッションの一つではないでしょうか。頼れる人が多ければ多いほど強くなれるはず。私も初心に戻り、事業の垣根を越えて仲間を増やしていきたいと思っています。(豊田)



投稿・ご意見募集中!

「現場でこんな問題がある」「自分のアイデアを聞いてほしい」などの意見やALL for ONEの感想や疑問点をアンケートに記入して送ってください。
ご意見、ご感想をお待ちしています。



日本カバヤ・オハヨーホールディングスグループ
Communication Magazine "ALL for ONE" Vol.21

発行: 2018年5月21日
制作: 日本カバヤ・オハヨーホールディングス 広報部
東京都千代田区紀尾井町3-12 紀尾井町ビル10階
TEL: 03-3222-7311

NIPPON
KABAYA OHAYO
HOLDINGS
INC.

ONE for ALL

真の欲求を究めて、ホンモノをカタチにする